

第7回美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施について

日本博物館協会では、平成24(2012)年から、美術品梱包輸送技能の認定試験を実施している。

博物館・美術館に展示される貴重な美術品・文化財等の取扱いや、その梱包輸送には、特定の知識・技能が必要だが、ベテラン作業員や、古参の学芸員が相次いで定年退職する中で、後継者養成に困難が生じている。他方、国公立の博物館・美術館では、競争入札で、経験のない梱包・輸送業者が落札し、美術品等が毀損されるような事態が懸念される。そこで、後継者に技能継承のインセンティブを与え、より多くの梱包・輸送業者の技術水準の向上を図るとともに、技術が未熟な業者への落札を抑止するための方策として設けられたのがこの認定試験である。

平成20(2008)年度に日本博物館協会が設置した「美術品取扱い技術等に関わる委員会」により提案され（「博物館研究」平成21(2009)年10月号）、平成21(2009)年度に会員館と輸送業界のアンケートを実施し、概ね好意的な回答を得たのを受けて、実施されることになった。

平成22(2010)年度からは自己研修用のガイドブックの作成を開始し、2年後の平成24(2012)年5月、「博物館資料取扱いガイドブック 文化財、美術品等梱包・輸送の手引き」として刊行した。なお、平成28(2016)年9月には、このガイドブックの改訂版を刊行した。

平成23(2011)年度は、東京藝術大学のご協力を得て、平成24年2月に3級試験の試行を実施した。（「博物館研究」平成24(2012)年5月号）

その後は、東京国立博物館のご協力を得て実施しており、4年間は毎年度2月に1回実施した。平成24(2012)年度は受験者公募で3級試験を行うとともに、2級試験の試行を実施（「博物館研究」平成25(2013)年7月号）、平成25(2013)年度は2級、3級の試験を受験者公募で行うとともに、1級試験の試行を実施（「博物館研究」平成26(2014)年7月号）、平成26(2014)年度、平成27(2015)年度は1級、2級、3級とも受験者公募で実施した（「博物館研究」平成27(2015)年7月号、平成28(2016)年7月号）。

3級の受験希望者が45名の定員を遥かに超え、関係各社に人数調整をお願いしていたことから、平成28(2016)年度は1級試験を8月に済ませ、3級試験を2月に2回実施した（「博物館研究」平成29(2017)年7月号）。平成29(2017)年度はこれに加えて、再受験者について2級では面接試験合格者の面接免除、3級では筆記試験合格者の筆記免除の制度を設けるとともに、2級試験の受験希望者の増加に対応して、2日目に2級の面接免除者の試験を実施したので報告する。

1級の認定試験

今年度の1級試験は、夏枯れの期間である8月5日土曜日に実施した。

1級は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、取扱いの難しい作品の梱包設計が行える水準を想定しており、経験年数10年以上と2級の保有を受験資格にしている。試験は筆記試験と口頭試問で、会場は東京国立博物館平成館の会議室をお借りした。

受験希望者は12名で、大手の会社を受験者の調整をお願いして、10名の試験を実施した。ご協力頂いた各社に御礼申し上げます。

筆記試験は、フィレンツェのウフィツィ美術館に所蔵のレオナルド・ダ・ヴィンチの傑作「受胎告知」を上野の国立西洋美術館に輸送し、展示会後返却するに際し、その下見において、留意すべき点と、留意すべき理由を記述する問題で、試験時間は90分、60%が合格の基準である。合格者は7名だった。

午後の口頭試問は、奈良県の薬師寺所蔵の国宝薬師三尊像のうち日光菩薩像と月光菩薩像を東京国立博物館に輸送する際の諸問題や、トラブル時の対応について、面接官からの質問に答えるものだった。1人30分間で、梱包設計の詳細について問うとともに、技術集団を統括し、きちんと説明することができる人物であるかどうかを審査した。残念ながら、合格者は3名に留まった。

両方に合格して1級を取得したのは10名中2名と、昨年度の5名、一昨年度の3名を下回った。

2級の認定試験

2級は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準を想定しており、経験年数5年以上で、3級を保有していることを受験資格にしている。筆記試験、実技試験、面接があり、実技試験は梱包の基礎である陶磁器と、特有の基礎知識を必要とする茶道具を課している。

平成30年2月17日土曜日と18日日曜日、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。1日目は要面接者を対象として30名、2日目は面接免除の再受験者を対象として14名、全部で44名の定員で募集したが、応募総数は53名で、このうち面接免除の再受験者は11名だった。このため、2日目に初受験者3名を回した上で、全体を44名に調整願った。ご協力頂いた各社に御礼申し上げます。なお、当日の欠席は1名だった。

2級の認定試験は実技試験から始まる。実技試験は、審査員の目を見て、「この受験者に作品を任せられるかどうか」を基準にしている。

茶道具の実技は、箱に収まっている茶碗を取り出し、コンディションをチェックして、内梱包して箱に戻す作業を求めたが、3名が不合格になった。陶磁器の実技は、綿布団を作成して、内梱包を行うことを求め、8名が不合格だった。

午後に実施する筆記試験は、前述のガイドブックから出題する。博物館資料の取扱いや梱包・輸送・展示・保存について多肢選択式で回答を求めると、該当する選択肢がなく、「なし」と答える「ゼロ回答」の問題も含まれる。回答

時間は今回から 10 分間短縮した 50 分で、32 問。65%の正解が合格の基準である。今回は会場の都合から黒田記念館で実施したが、3 名の不合格者が出た。

本年度も、筆記試験の後に、講習を実施した。内容は、主として午前中に行った実技試験の振り返りを行った。

講習の後の面接試験は、コミュニケーション能力と指導能力の確認を主目的とし、全員が合格した。

所要の試験全てに合格し、2 級の認定試験に合格した者は、受験者 43 名中 32 名、合格率は 74%で昨年の 62%を大きく上回った。

3 級の認定試験

2 級と同じく 2 月 17 日土曜日と 18 日日曜日に、2 日連続で、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。

3 級は、需要が多く比較的取扱いの容易な陶器、額装作品、掛物などを所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができる水準を想定し、2 年以上の経験を要求している。筆記試験と複数の実技試験を受け、全ての試験に合格することが 3 級認定試験合格の条件となっている。

定員 90 名に対し、受験希望者数は 95 名で、今回も人数の調整をお願いした。この場を借りて、ご理解ご協力に感謝申し上げます。なお、筆記試験免除者は 13 名で、本人の希望の方の日に受験いただいた。当日の欠席は全部で 4 名だった。

午前中に実施する筆記試験と講習は、今回は黒田記念館で実施した。筆記試験の第 1 問は、自習用ガイドブックの第 1 章「美術品の取扱いの基礎知識」の 1 部を示し、空欄に入る語を選択する問題。第 2 問は、掛物、卷子等の矢印で示す部分の名称を、選択肢の中から記号で答えるとともに、読み仮名を記す問題を出題した。今回も 70%の正答を筆記試験合格の基準にした。受験者 86 名中、不合格者は 2 名にとどまった。

筆記試験に次いで講習を行い、実技試験で実施する額装作品、陶磁器、掛物の模範的な梱包作業をビデオで示し、解説した。ビデオは、有志の協力により撮影・編集されたものを使用した。

午後に実施する実技試験は、今回は表慶館が使用できなかったため、全て平成館で実施し、各受験者に 2 種目の受験を求めた。額装作品については全受験者が 15 名ずつに別れて受験した。掛物と陶磁器は、予め振り分けられた班により、いずれかを受験した。額装の実技は 40 分間で、6 号の額装絵画を、国内輸送用に段ボール箱を作成して梱包する。陶磁器では、与えられた綿布団を使用して内梱包を行う。掛物では、箱から出して壁に掛け、降ろし、内梱包することを求めた。

実技試験の不合格者の数は、額装は 86 名中 21 名、陶磁器は 40 名受験して 6 名、掛物は 46 名の受験者中 12 名にとどまった。

この結果、所要の試験に全て合格し、3 級の認定試験に合格したのは、受験者 86 名中 60 名で合格率は 70%に迫り、昨年を若干上回ることができた。

今回の認定試験の反省

4月18日、委員会を開催し、今回の認定試験の反省を行った。

この結果、認定試験の時期については、次回も今回と同様の時期に実施することになった。会場については、東京国立博物館の日程上可能であれば、次回も今回同様、同館の平成館と黒田記念館で実施することになった。

2級と3級の一部免除の制度を今回から導入したが、これにより再受験した受験者の合格率は、2級・3級ともに、全体の合格率を下回ることが判明した。しかも多くが比較的小規模な会社の職員で、実技試験で不合格となっており、社内で実技研修を受ける機会の乏しい受験者が苦勞している状況が反映していると見られるとして、対策を講じる必要性が指摘された。

このための対策の一つとして、現在実技試験の審査で、審査の観点を示すものとして使用しているチェックリストを公開することにした。また、3級の講習に使用しているビデオを、必要な解説を付したうえで公開することとし、制作にかかわった委員の間で検討することになった。

各級試験の定員については、3級はスケジュールの調整が困難であるため当面90名を変更せず、2級については使用できる会場が決定した段階で今回の44名より増員する方向で検討することになった。1級については、協議の結果、当面は現行の10名を変更しないことになった。

試験結果のフィードバックの仕方に関しては、今回改善を加えたところ、不満は聞かれなくなったという報告があり、今後は今回の方法を踏襲することになった。

なお、2級の筆記試験の時間の短縮による問題は特に認められなかったので、今後とも50分で実施することになった。